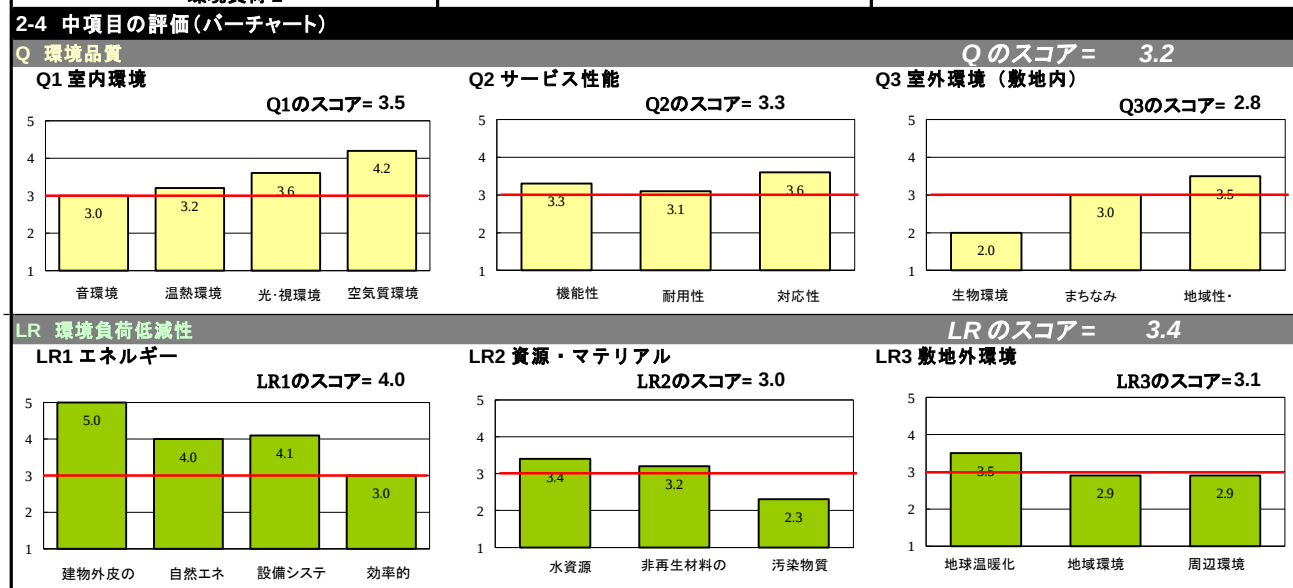
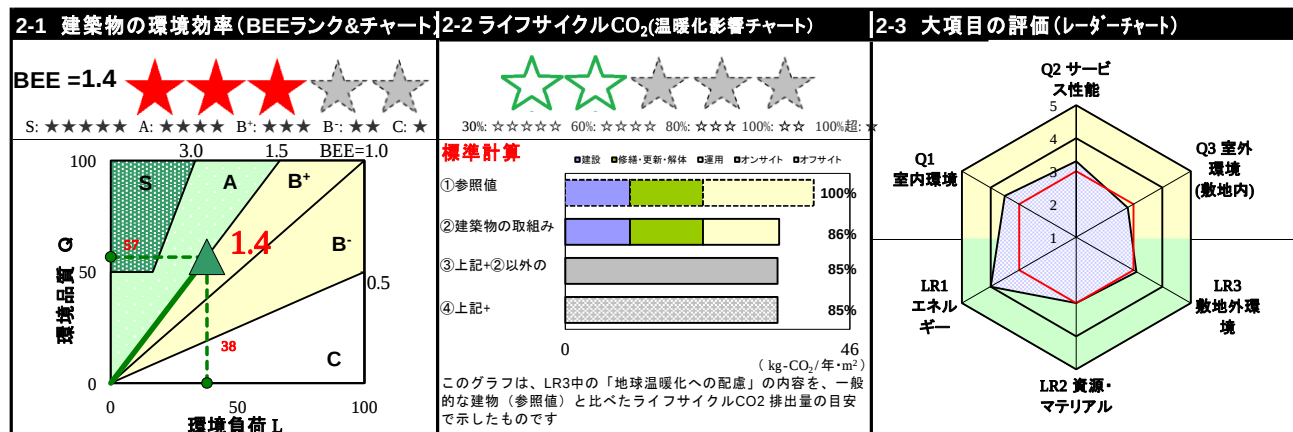


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	寝屋川市第四中学校区小中一貫校	階数	地上5F
建設地	大阪府寝屋川市打上高塚町	構造	S造
用途地域	商業地域、第一種住居地域	平均居住人員	1,600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,768 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2025年2月25日
敷地面積	29,763 m ²	作成者	今枝、西山、眞下
建築面積	8,130 m ²	確認日	2025年2月24日
延床面積	19,654 m ²	確認者	岡田孝介



3 設計上の配慮事項		その他
総合 中学校1校、小学校2校を統合する施設一体型小中一貫校のプロジェクト。まちのメインアイコンとなり、地域の学びの核となる、緑に囲まれた明るくおらかな学校をめざす。		0
Q1 室内環境 4層吹き抜けを通じて一体的につながった校舎は吸音に配慮し。教室はタイルカーペット、穴あき化粧石膏ボードの天井、共用部もグラスウール貼りとしている。外周部に奥行のあるバルコニーを設置し、窓面積を大きく確保し採光	Q2 サービス性能 階高を3.8m以上とし、天井高さは2.7m以上を確保、躯体は共用期間65年として、屋内は緩やかな階段を多数配置し、学年ゾーンごとに車いすトイレを配置している。更新性に配慮したPS、EPS、配線ルートを確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 25%以上の緑化率としている。屋根の重なりによる先導的な景観とし、バルコニーの軒天には天然木を使用している。
LR1 エネルギー BPI_m=0.69, BEI_m=0.72のスコアとなっている。太陽光発電は10Kwを屋根上に設置。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具、擬音装置、自動水栓の採用による節水、高炉セメント、ロックウール化粧板等のリサイクル材の使用、持続可能な森林から算出された木材の利用、乾式工法による部材の再利用可能性向上への取り組みをおこなっている。	LR3 敷地外環境 職員室近くに教職員の駐輪場を約80台確保し車両の使用を抑制。車両出入口は側道からの出入として府道の交通渋滞に配慮している。教室外部は2m以上の奥行の深いバルコニーにより周囲へのガラス反射にも配慮している。広告物照明を行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版					受付番号		R6-変-0075		
大阪府の重点評価(結果)					Osakafu-新築・既存 2018V1.0				
【建物概要】		建物名称		寝屋川市第四中学校区小中一貫校 校舎棟					
		建設地		大阪府寝屋川市打上高塚町					
		用途／区分		学校(小中高)					
【評価結果】		CASBEE 総合評価		★★★★★			B+		
①		CO2削減		★★★★★			4		
②		みどり・ヒート アイランド対策		★★★★★			3		
③		建物の断熱性		★★★★★			5		
④		エネルギー削減		★★★★★			4		
⑤		自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
				太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
		エネルギー消費量の報告							
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.5	4		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.1	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									